

◆富山県ものづくり産業未来戦略[H26.5策定]

○策定趣旨

日本再興戦略等の国の産業施策や国際的な技術動向、経済環境の変化等を踏まえ、本県ものづくり産業の発展のための競争力強化に向けた今後の施策のあり方を定めるもの

○役割

- ・短中期的な本県産業振興施策へ反映させる指針
- ・国の成長戦略や施策への反映

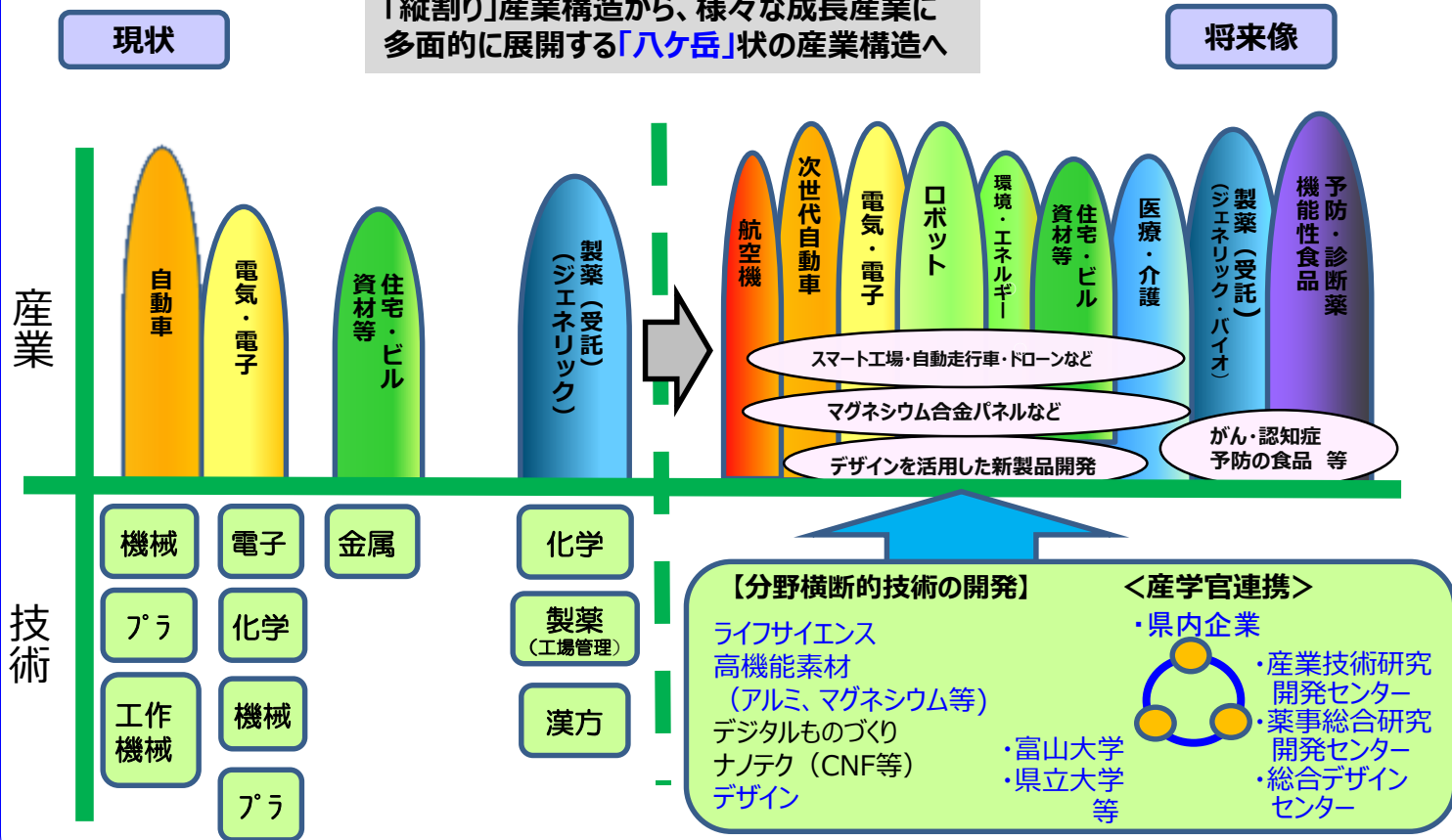
○構成

- ・必要となる取組みごとに「施策の方向性」及び「国への要望」を具体的に記載

○計画期間：2014(H26)年度から2018(H30)年度まで

本県ものづくり産業の将来像

「縦割り」産業構造から、様々な成長産業に多面的に展開する「八ヶ岳」状の産業構造へ



必要な施策の方向性

○産業クラスターの形成のための技術開発基盤の構築

○成長分野への参入促進

- ①医薬・バイオ、②医薬工連携、③次世代自動車
④航空機、⑤ロボット、⑥環境・エネルギー

○研究開発、生産現場、経営における人材育成

○デザインの活用やブランド化

○国内外への積極的な販路開拓

○中小・小規模企業に対する総合的支援

現行戦略の内容構成

第1章 本戦略の位置付け

- 1 本戦略策定の趣旨 2 性格と役割 3 計画期間 4 計画の実行性の確保

第2章 最近のものづくり産業を取り巻く環境と本県ものづくり産業の強み

1 ものづくり産業を取り巻く環境

- ・人口構造の変化＝国内市場の成熟化・労働人口減少
- ・国際的な競争環境の変化＝海外の経済成長を見据えた対応の必要性
- ・ものづくりのモジュール化の拡大
- ・ものづくりのプロセスのデジタル化

2 本県ものづくり産業の強み

- ・「丁寧な」ものづくり力…発注メーカー等とのすり合せ力が強い
- ・基礎素材型産業や製薬産業の集積
- ・「真面目な」現場力、「堅実なマネジメント」

第3章 総論

1 ものづくり産業を取り巻く環境に対する対応の必要性

- ・国内市場の停滞への対応
- ・海外市場の拡大に伴う海外生産拠点の拡大への対応
- ・モジュール化の拡大への対応
- ・ものづくりのデジタル化への対応

3 必要な施策の方向性

- ・産業クラスターの形成のための技術開発基盤の構築
- ・成長分野への参入促進
- ・研究開発、生産現場、経営における人材育成
- ・デザインの活用やブランド化
- ・国内外への積極的な販路開拓
- ・中小・小規模企業に対する総合的支援

2 本県ものづくり産業の将来像

- ・分野横断的技術をベースとし、従来型の「縦割り」産業構造から、様々な成長産業に多面的に展開する「八ヶ岳」状の産業構造へ転換
- ・本県内の生産拠点が世界のマザー工場として世界に展開

第4章 本戦略推進にあたって必要となる取組みの概要

1 新たな産業クラスター形成のための技術基盤形成

- ・高機能素材分野
- ・デジタルものづくり分野
- ・ライフサイエンス分野

3 本県ものづくり人材の育成確保

産業クラスター形成、ものづくり産業のデジタル化、新たな成長産業への参入、グローバル人材の育成支援

2 本県ものづくり企業の成長産業への参入

- ①医薬・バイオ…ジェネリックに加え、健康寿命増進のための予防・診断薬やバイオ技術による高度な製薬の生産拠点
- ②医薬工連携…医薬工連携ネットワークの連携強化により、新たに医療機器、福祉機器、製薬機器分野への参入
- ③次世代自動車…EV、ハイブリッド、FCV等の電子部品や部材産業への参入
- ④航空機…共同受注グループが航空機の基幹部品を受注
- ⑤ロボット…センサーなどロボットの基幹部品分野での高いシェアの獲得、インフラ検査用ロボット分野への参入
- ⑥環境・エネルギー…環境エネルギー関連産業への参入

4 デザイン活用等による高付加価値化

高度ものづくりの技術とデザインの融合による高付加価値化商品開発を支援

5 北陸新幹線開業を活かした企業誘致による成長産業集積・県内企業販路開拓・ものづくり技術の発信、海外展開への支援

- ・成長分野の企業の研究開発拠点、マザー工場、本社機能の誘致
- ・テクノホールの施設・機能の充実等による見本市・展示会の開催促進
- ・海外の現地支援体制整備、ヒト・モノ・情報の流通インフラ整備など

6 中小・小規模企業に対する総合的支援

とやま中小企業チャレンジファンド、とやま起業未来塾による起業家輩出、国プロジェクト等の活用支援、新世紀産業機構による総合的支援など

社会経済情勢が変化中、現行戦略に基づく様々な取組みの状況を踏まえ、本県ものづくり産業の更なる振興を図るため、今後の将来像を想定し、これに向けてどのような取組みを進めていくか検討

ものづくり産業を取り巻く環境の変化

社会情勢

○社会のあり方

- ・Society5.0(超スマート社会)や、SDGs(持続可能な開発目標)の実現への対応
→モノからサービスへの転換

○人口問題

- ・生産年齢人口の減少、東京一極集中
→ものづくり人材の確保が課題として顕在化

○技術

- ・第4次産業革命への対応
→IoT、ビッグデータ、AI、ロボット等

○産業のあり方

- ・企業間連携、異業種連携など横断的な取組み
→ Connected Industries
(様々なつながりによる新たな付加価値の創出)

○県レベルでの大きな変化

- ・北陸新幹線の開業(富山・東京間)(H27.3月)
開業前 平均3時間26分→開業後 最速2時間8分
- ・人手不足感の高まり
平成30年5月 有効求人倍率1.93倍(全国第7位)

国の政策

・新しい経済政策パッケージ(H29.12)

→ 人づくり革命、生産性革命

「Society5.0」時代の新たな付加価値の創出に向け、2020年までの3年間を集中投資期間

- ・IoT、AI、ロボットなど生産性を劇的に押し上げるイノベーションの実現(生産性を年2%向上)
- ・人手不足に悩む中小・小規模事業者も含め、企業による設備(設備投資額を10%増加)や人材への投資の促進や、力強い賃金アップ(2018年度以降3%以上の賃上げ)等を後押し
- ・名目GDP600兆円(H28:539兆円)の実現

・未来投資戦略2018(H30.6)

- 重点分野
- ①次世代モビリティ・システムの構築
 - ②次世代ヘルスケアシステムの構築
 - ③エネルギー転換・脱炭素化に向けたイノベーション
 - ④中小・小規模事業者の生産性革命の更なる強化 など

検討の視点

【視点①：生産性向上、高付加価値化】

- IoT、ビッグデータ、AI、ロボットなど革新的技術の導入による生産性の向上
- 富山県が先駆けて取り組んできたデザインと新素材(CNF等)などの先端技術の融合などによる商品の高付加価値化、クリエイティブ産業の育成

【視点②：人材確保と育成】

- 高度技術人材の確保
- 若手研究員・技術者の育成、IoT人材の育成
- コンソーシアムなどによるインターンシップの受入
- 新幹線開業効果を活かした移住・Uターン等の促進
- 女性、高齢者などの活躍促進、潜在的労働力の活用
- 外国人留学生などのグローバル人材の活用、外国人技能実習生の育成
- キャリア教育の充実

【視点③：産業基盤の強化】

- オープンイノベーションの推進
⇒異業種、異分野の技術等を組合せ、革新的な新製品の開発等を推進

<産学官連携>

- ・県内企業
 - ・富山大学
 - ・県立大学等
- 産業支援機関

<企業間連携>

新しい取引のための
技術力・商品開発力向上

- 産学官連携コンソーシアム形成(くすり、アルミ等)
⇒技術力の強化、専門人材の育成

- 新たな成長分野としてヘルスケア産業への参入

〔センシング技術の活用による健康管理、介護ロボット等の次世代介護機器の開発〕

- 3つの産業支援機関の機能拡充を通じた新産業の創出

技術開発・技術支援、コーディネート機能の強化、効果的な広報PR、企業間連携・産学官連携の推進、設備の充実強化

<相互連携による機能強化>



「新・富山県ものづくり産業未来戦略」の策定

現行戦略から引き続き取り組むべきことに加え、上記視点を踏まえた新たな取組みを推進